

# 行政視察報告書

令和 4 年 11 月 4 日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員 東川 三郎 ④ 議員 大山 盛久 ④  
議員 山本 聡 ④ 議員 \_\_\_\_\_ ④  
議員 \_\_\_\_\_ ④ 議員 \_\_\_\_\_ ④

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

## 記

### 【1】 NPO 法人人道の船陽明丸顕彰会

住 所	石川県能美市福岡町口 10 番地
電 話	0761-55-1267
視察案件	笠岡市出身茅原元治船長の歴史を検証する同会との交流、歴史研究
期 日	令和 4 年 10 月 24 日 (月) 14 時 00 分 から 14 時 30 分 まで
応 対 者	先方の都合により、応対者なし。
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	特定非営利活動法人「人道の船 陽明丸顕彰会」北室正枝邸 石川県能美市福岡町町口 10 番地、その他
概 要	・石川県能美市 特定非営利活動法人「人道の船 陽明丸顕彰会」北室正枝邸 表敬訪問 (不在)。 笠岡市出身の陽明丸船長茅原元治によるロシア子供難民 救済の足跡を伝える NPO 法人との人道交流に関する意見交換を予定していた もの。(日程調整できず、不在宅に訪問)
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

(個人行政視察用)

【2】 能登町 イカの駅つくモール

住 所	石川県鳳珠郡能登町超坂 18
電 話	078-674-1399
視察案件	イカの駅「つくモール」の運営及びコロナ予算での「イカキング」設置について
期 日	令和 4年 10月 25日 (火) 11時00分 から 12時00分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	「いかの駅 つくモール」 石川県鳳珠郡能登町字越坂 18-18-1
概 要	<p>いか等の水揚げ、水産加工により栄えていた町が、近年のいかの不漁、漁場の縮小などで落ち込んでいた産業を「道の駅」の開業にあわせ製作された“いかモニュメント”がスポットライトを浴びることによって、観光資源としてまちの活性化に寄与してきた様、及び「小木のいか」の復活までの過程の聞き取り等。</p> <p>(モニュメントの振り切ったコンセプトがヒットして、休日には県内外から多くの観光客が訪れる施設の概要及びサービスの内容の確認、視察。)</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【3】 かほく市こども屋内運動施設 かほっくる

住 所	石川県かほく市谷ワ 108+
電 話	076-208-3517
視察案件	あそびの森 かほっくるについて
期 日	令和 4年 10月 26日 (水) 10 時 00 分 から 11時 00分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	「あそびの森 かほっくる」( 石川県かほく市谷ワ 108 )
概 要	<p>合併してできたかほく市における人口増に向けた施策、及び少子化対策として整備した施設の見学、また至った経緯、今後の対策の視察。</p> <p>(減少を続けていた人口が子育て世代へのサービスの拡充、また若年層向けに住宅建設の資金的援助、取組み、社会的背景などの聞き取り)</p> <p>① 保育施設への欠席を当日スマホで出来るようアプリ導入し簡略化                  ② お昼寝ベッドの導入                  ③ 紙おむつ @2,500円                  ④ 新築助成金の増設 (一戸 2,000千円) 他</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

## 所感 ( 東川 三郎 )

### イカの駅つくモールについて

マリンレジャー施設のつくモールの視察については、昨年作られた「いかキング」こと巨大いかのモニュメントについて、資金がコロナ対応の助成金だったこともあり、資金使途について色々な意見が出る中、マスコミの注目を集め、話題となったことがきっかけとなり、見物客が多くおとずれる人気のスポットとなった。イカの駅の外観や中で扱われている商品などはイカをあしらった愛嬌のあるものや、新鮮な魚介類を中心にきれいに陳列されている。運営する指定管理者の担当者(駅長)は、飲食所に勤務するかたわら、施設の運営に知恵を絞り、アイデアを現場の売り場に繁栄させるなど郷土愛の強い人であった。この点、現場のやる気が違ってくるように思われる。気持ちが経験不足を補う良い例と感じた。町役場の方たちも礼儀正しく、好感が持てた。

隣り合う漁港には遊覧船が準備され、小さな湾内を観光できるようになっている。買い物に訪れた人を観光面でも案内できる場所である。美味しそうな海産物ときれいな海におとずれた人は満足すると思う。町と施設が一体となった良いスポットである。

### あそびの森かほくろについて

かほく市は人口 39,000 人余りの笠岡市より 6,000 人少ないまちである。ただここ 10 年間の人口の推移をみれば、1,000 人増えている。その実態を確認すべく人口増への取組の処方を確認できれば、と視察の対象とした。訪ねたのは郊外にある子供用の屋内に大規模な遊具が備えてある施設である。館内は建築間もないこともあるが、清潔にたもたれていて、また付き添う大人もゆっくりくつろげる施設である。周辺にも遊具があり、晴れた日には外でも思いっきり子どもが遊べる施設となっている。新築するのではなく、今ある施設を有効活用して建設コストを抑え、運営については NPO 法人による専門知識を備えたプロ集団といえる。子供の発達を促すとともに、同伴する引率者、養育者の安らぎの場ともなっていて、休日には入館制限をするなど、他市からの来訪者が多数訪れるこどもと大人の憩いの場所とのことで、注目を集めている。

所感（ 大山 盛久 ）

イカの駅つくモールの視察について

「日本百景、九十九湾の美しさをイカなく堪能」施設の見学はベイファーム道の駅笠岡を持つ本市にとっても参考となる施設である。これまでマリレジャーを中心にダイビング・SUP・カヤックなどのレンタルができたりする能登マリレジャーの拠点であり、また遊覧船が運行され、湾内の見学や物販コーナーやレストランではイカ料理が満喫できるなど、観光客に一定のアピールをしてきた。ただ、ここ2、3年はコロナ禍の影響を受け、また近年のイカの不漁などがつづいたためまちの活力が落ちていたところ、所謂コロナ補助金の活用において、庁内の発案による巨大モニュメントの製作が持ち上がったのは特筆すべきである。特に副町長を中心にしたプロジェクトチームが立ち上がり、短期間にモニュメントの製作にこぎ着け出来たのはチームワークの良さによるところが大きいと思う。担当部署を含め広く庁内の意見を収集し、ボトムアップの作業による「イカキング」づくりは、役場の一体感を作り上げ、また地域との連帯のシンボルとなるなど能登町の自慢の場所となった。

よかれあしかれ、大きく報道されたことによる経済宣伝効果は来客数の増加につながり、まちが活性化している。今後、巨大モニュメント設置による集客効果を礎にさらなる集客とイカのまちとしての知名度アップと、海産物を扱うまちとして、庁内及び地域が官民一体となつてのまちづくりが期待でき、笠岡市においてもこの仕組み(ボトムアップ)と考え方は大変参考になる。2日前に選挙をおえた酒元(さけもと)議長と談笑する副市長の和やかな顔が印象的だった。信頼関係が伺えた。

”ようこそ「海とみどりに抱かれた、にぎわいあふれるまち」かほく市”の視察について

訪れた日は天気も良く、「かほつくる」体育館の外でも平日ながら元気に子供たちが遊んでいて、施設としての存在感があったように思う。日本海特有の曇天と晴天が入り混じる、時折雨が降ってくる地域には雨の当たらない「かほつくる」のような施設が必要だと思うが、館内はとおりの一変ではない、企画した担当部署の思いが詰まっているものと案内を受けた。5つの事業者によるプロポーザルを経て、整備された遊具とあわせて学びのスペースや子どもたちとふれあうことのできるスキンシップのスペースがあったりなど、人間性を互いに育むことができる、考えられたものであった。限られた予算の中で、最大限のパフォーマンスを実現したかのような施設であった。運営はNPO法人によるものだが、来館者の入場料(かほく市以外の利用者)と市の予算でまかなっている。かほく市民が利用する際は入場無料であるが、他市の利用者は使用料を払う仕組みだが、人数は意外にも他市利用者がかほく市の利用者を超えている、とのことで、「かほつくる」の利便性やコストパフォーマンス面などで地域の指示を得ている。

## 所感（山本 聡）

能登町の関係人口増大に向けた取組み  
のと九十九ワン観光交流センター イカの駅つくモールにて説明及び意見交換する。

石川県の代表する観光スポットである能登半島の、東の内海を構成する能登町の視察については、歴史的に繁栄してきた北前船の寄港地として海産物の取り扱いを中心に往来があった能登町の取組をうかがうことによって笠岡市へのフィードバックが効果的と考えた。全国共通命題である少子高齢社会への対応は、地元産業を担う労働者層をはじめ、いわゆる関係人口の増大に向けた取組みによる町の「海、山、祭り、いいとこいっぱい」と標榜する「活性化」のキャッチコピーが誘因であったのか、きっかけは意図しないところからもたらされることを能登町の道の駅の取組みによって証明されたかもしれない。結果的にその経済効果はモニュメント作成費用の90倍の24億円と試算され、たちまち人気スポットとなった。

モニュメント製作費 2,700万 円

経済波及効果(試算) 6億 円

宣伝効果 18億 円

他、付随する観光資源との連携による効果も予想され、当面は賑わいが創出されることと思われる。隣接する、整備された建屋も統一感が演出され、訪れる観光客へ好印象を与えるものだ。その上食事のメニューも地元食材(イカ)を活用したボリューム感のある、リピート客を獲得できそうな、能登町の食卓を彷彿とさせる素晴らしいものであった。「イカキング」と命名されたモニュメントはまちづくりに必要な多様性を教えてくれる貴重な財産であり、地域住民が行政と一体となり魅力を発信することの重要性を示す証左でもある。次なるムーブメントに向けて不断の努力を行うことは言うまでもない。

## かほく市の人口増への取組み

かほく市の定住促進策を郊外に位置する「あそびの森かほっく」内の多目的スペースにて説明、及び意見交換する。

3つのまちが合併し構成されたかほく市は金沢市のベットタウンとしての機能をもちつつ、独自の定住促進策により周辺地域からの人口流入が続き、平成24年に34,800人の人口は10年間で約1,000人増の35,900人(令和4年9月推計)である。市は定住人口増加プロジェクトと銘打ち、

- ① ターゲットを絞った定住促進 若者や若年世帯
- ② 子育て支援策の充実 経済的支援(保育の質向上に向けて)

をメインに定住に向けた取り組みを伺った。今回、ハード面の取り組みの一環としておこなわれてきた既存施設を活用した「かほつくる」施設の見学を実施し、取組の一端を紹介いただく。施設の運営は指定管理者によるもので、地元 NPO 法人が担当する。館内はコロナ禍ということもあったが、清潔に保たれている。定期的なアナウンスによる清掃の案内には特にストレスもなく、利用者へのきめの細かな配慮を感じさせるものである。施設そのものは既存の体育館を再利用したものであるが、目新しさも手伝ってか、市外からの利用者は有料にもかかわらず、利用者の過半数を超える人気ぶりとのこと。市内在住者の利用は無料ということもあり休日には時間待ちを余儀なくされるほど盛況な施設となっている。近隣には保育施設があり、屋外施設の利用も含め、あそび場の拠点となっている。定住に向けた、若年世帯向けの施策は、結果として出生数は本市(笠岡市)を上回る年間 300 人とのこと。住む場所、育てる場保、安住の場所、であり、子育てを地域で支える適切な施設、体制が整っているまちである。